

編集後記

太宰府市公文書館は「文書資料部門」「太宰府学研究センター部門」の2つを活動の柱としています。そのうち、後者の“研究”については、本誌上で個別に日頃の調査研究成果を発表していますが、今回は最新の齋藤秋圃研究の成果を『特集号』として1冊にまとめるという本誌初の試みを行い、充実した内容となりました。ご寄稿いただいた執筆者の方々には厚く御礼申し上げます。

井形氏の論文は、奥村玉蘭編『筑前名所図会』を美術史的に分析し、齋藤家資料に遺る「筑前名所圖繪」の柱題を持つ用紙の存在や、図そのものの近似性から、挿絵の筆者に秋圃が含まれることを初めて指摘したものです。小林氏の研究ノートは、秋圃がかつて絵の御用をつとめた旧秋月藩内とその周辺に遺る秋圃および秋圃関係の絵画作品について新出資料を含めて紹介し、朝倉市三奈木品照寺を舞台として秋圃の画を学んだ画学者の存在を指摘しています。井形氏・宮崎氏による資料紹介は、太宰府天満宮蔵《町並図絵馬》を詳細に調査分析し、まず、描かれている町並みが、絵馬の寄進者魚屋武四郎の住まいがあった福岡の萬町付近であることを指摘、あわせて、絵画表現の特徴や制作背景等を考察したものです。朱雀の資料紹介は、愛知県西尾市岩瀬文庫蔵『江海風帆録』について、挿絵については齋藤家資料に遺る同書の下書き（あるいは写し）、共通する図の存在から、落款がない図にも秋圃筆のものが含まれることを確認し、本文については福岡藩士吉田重昌らの編による『江海風帆草』から採られていることを明らかにしました。資料目録は、平成30年から令和元年までに絵師調査チームが調査した齋藤秋圃関連資料の目録で、新出資料や秋圃研究の基準となる既出作品の全図および落款印章の図版を付しています。

図版掲載・資料翻刻をご快諾くださった所蔵者・関係機関の皆さまにはこの場を借りて謝意を表します。

ところで、市内の家を調査すると、掛け軸・扁額・色紙など、今でも太宰府の絵師の作品を多く見ることができます。しかしながら何の絵なのか、どのような詩が書いてあるかなどが分からず、所蔵者も代替わりをするなどして、その価値を見出しにくくなってきているようです。これらは歴史に埋れゆく文化財と言ってよいでしょう。現在本市で取り組んでいる太宰府絵師調査事業の進展によって、市内に眠る文化財の掘り起こしと再評価がなされ、太宰府の歴史と文化の奥深さや魅力の再発見につながれば、調査に携わる身としてこの上ない喜びです。

(J 記)

太宰府市公文書館紀要一年報太宰府学— 第14号 齋藤秋圃特集号

発行日 令和2年3月31日
編集 太宰府市公文書館
〒818-0110
太宰府市御笠五丁目3番1号
電話 092-921-2322
E-mail:kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp
発行 太宰府市
印刷 株式会社博多印刷
〒812-0028
福岡市博多区須崎町8番5号
TEL:092-281-0041